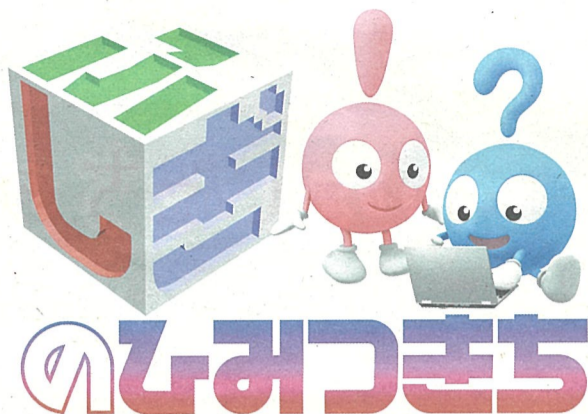


今回のテーマ

大きくて まん丸のマリモ

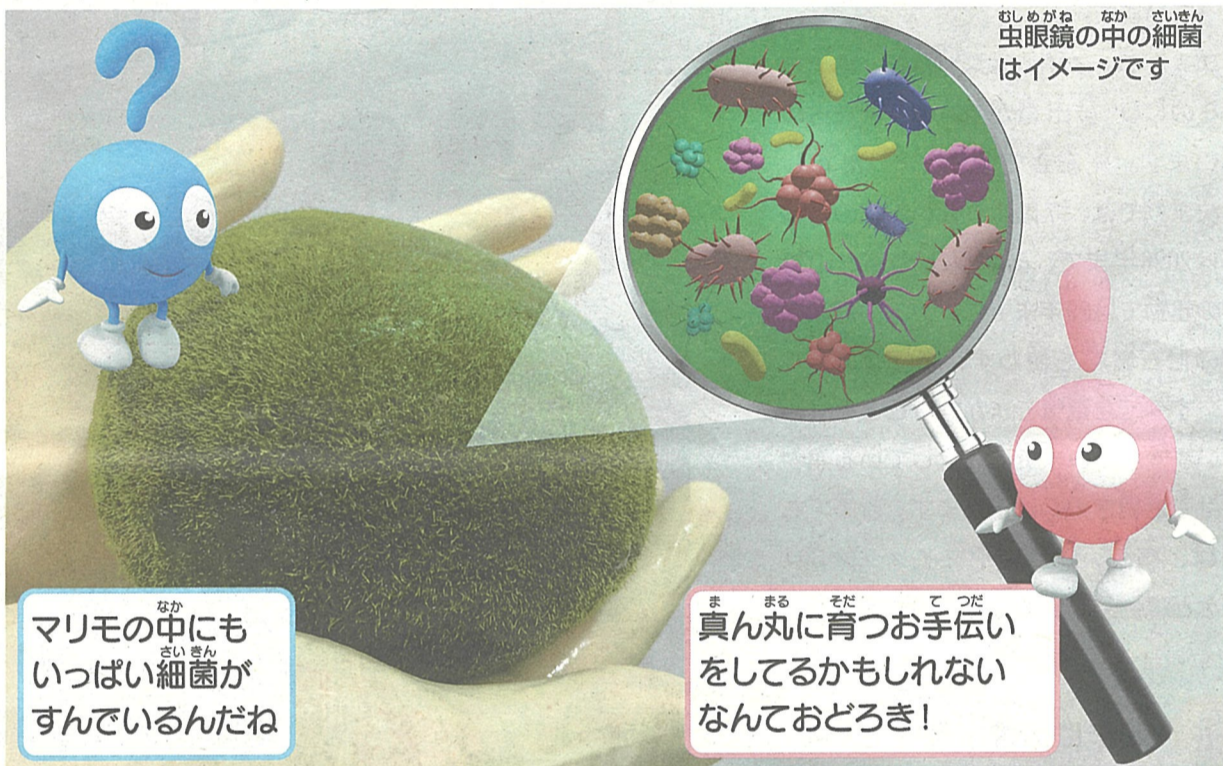


No.059

北海道の阿寒湖にすむ藻の仲間。きれいに丸く大きくなるには細菌たちの協力も必要だった!?

みなさんはマリモという生き物を見たことがありますか？ 焼きそばにかけるアオノリや、みそ汁にのせるアオサと同じ仲間「藻類」です。マリモは世界の寒い地域の湖や沼に分布しています。

でも、環境が変化することで、マリモの数はどんどん少なくなっています。特に、丸くて大きなマリモの群れは、今では世界中を探しても北海道釧路市の阿寒湖でしか見ることができません。阿寒湖のマリモは、国の特別天然記念物として大切に保護されています。



虫眼鏡の中の細菌はイメージです

マリモの中にもいっぱい細菌がすんでいるんだね

真ん丸に育つお手伝いをしてるかもしれないなんておどろき!

◇マリモが丸くなるには

マリモという名前は、みなさんが考えるように、おもちゃの「まり」のような、まん丸な形から名付けられました。マリモの体は、もともと糸のような形です。実際は全部のマリモが丸いわけではなくて、いろんな形があります。縮くずみみたいだったり、石にくっつ

ていたり、そしてもちろん、まん丸くなったり。

マリモが丸く成長するには、糸状のマリモが集まって塊となり、風で生じた波によって湖底でコロコロ転がる必要があります。丸くて大きなマリモが阿寒湖にしかないのは、阿寒湖がマリモを転がす風と波の環境を備えた湖だからです。

◇マリモと細菌

阿寒湖のマリモは、直径30センチを超えるほど大きくなることで世界的に有名です。最新の研究で、阿寒湖のマリモの中に細菌が暮らしていて、丸いマリモの巨大化を助けている可能性があることが分かってきました。人間のおなかの中にもたくさん細菌がいて、私たちの

体の健康を保つ手助けをしています。マリモの中にも、いろいろな細菌が暮らしていて、丸い姿を保つために役立つネバネバした物質や、マリモに必要な栄養をつくっていると考えられています。マリモと細菌の関わり合いは、丸く大きくなるひみつを解くカギの一つになりそうです。

今日の先生



中井亮佑さん

「とても小さな細菌たちのすごい能力を調べるために、これまで南極やアラスカ、砂漠に行きました!」

産業技術総合研究所(産総研)生物プロセス研究部門。専門は微生物。著書「追跡! 辺境微生物」。出身小学校は三重県松阪市立花岡小。

さんそうけんって?

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)



無断転載・複写禁止(株)毎日新聞社